

オリーブの会通信

مجموعة الزيتون

2022年5月10日第18号(通巻24号)
 オリーブの会
 大阪府豊能郡能勢町平通101-453
 tel/fax:072-737-9454
 mail: olivenokai_zeytun@yahoo.co.jp
 facebook:oribunokai



パレスチナの怒りは爆発する

モスクの中に侵入してきた占領軍に抵抗する

3月22日にベールシバで作戦が行われ、3月27日にハデラで、3月29日にブネイ・ブラク（テルアビブ近郊）で5人を射殺した。48年占領地内での作戦の連続は、イスラエルを震え上がらせた。それは、3月27日にネグブで行われたアラブ4か国と米国、イスラエル外相会議に対する怒りをしめしたものであった。対イランでの国交の正常化によって、パレスチナ問題を中東の核心から消し去ろうとする試みに対するパレスチナの怒りの表明であった。

そして、その報復としてのパレスチナ抵抗勢力の拠点であるジェニンへの攻撃は、パレスチナの怒りを拡大した。イスラエル政府は、占領軍の銃の使用の制限を解除し、パレスチナ人の殺害を奨励した。占領軍は、パレスチナ人多数を殺した。

今年のラマダンが、ユダヤ教の過ぎ越しが4月15日に始まり、キリスト教のイースター（西方教会4月17日、東方教会4月24日）と重なり、聖地アルアクサをめぐる対立が激化した。4月2日にはじまったラマダンで、パレスチナ人たちは、アルアクサでの礼拝を行い、それに対して、ユダヤ人入植者たちが、アルアクサに押し掛け、ましてや、ユダヤ人過激派が生贄の儀式まで行うと

いうことで、パレスチナ人たちは、アルアクサに結集し、それをイスラエル軍が力で排除するということが繰り返し行われた。このイスラエルの行為は、アルアクサの守護者であるヨルダンとの合意で、イスラム教徒のみの礼拝にするという合意を踏みにじるものであった。

イスラエルは、聖地エルサレムのユダヤ化を進め、アルアクサにユダヤ人入植者の侵入を恒常化し、宗教儀式までおこなうまでになり、そのたびに、占領軍は、暴力的に、パレスチナ人礼拝者を追い出しており、イスラム教徒のみ礼拝場所であることを崩そうとしている。すでにヘブロンのイブラヒミモスクでは、ユダヤ教の礼拝が行われるように、時間的、空間的な分割がおこなわれ、イスラム教徒の礼拝の制限が行われているが、アルアクサでも同様のことが行おうとしている。それに対して、イスラエルの制限を突破し、多数の西岸、48年領内のパレスチナ人が、アルアクサへの礼拝に結集するようになった。

ロシアのウクライナ侵略戦争の陰で、イスラエルは、仲介者として、ふるまいつつ、ウクライナ、ロシアのユダヤ人難民を受け入れ、彼らを入植地に投入しようとしている。入植地の拡大の政策と一体のものとしてある。

オリブの会通信 第18号(通巻24号)

対イランに対しては、湾岸諸国を正常化で、軍事的な支援も行い、また、シリアでも、ロシアとの協調関係もちつつ、ヒズボラーなどイラン部隊への攻撃を続けている。正常化に走ったアラブ諸国は、パレスチナの大義も、イスラム教徒の義務でさえ捨て去り、対イランでの自国の王家の利益を第一とすることになりさがった。

イスラエル政府は、ベネットのヤミナ党から一人政権を離れ、また、アラブのマンスール・アバースの統一リストもパレスチナ人から批判をうけている。ベネット政権は、少数政権となり、不安定な政権運営を強いられているため、よりパレスチナへの攻撃的な政策で、イスラエル国民の目をそらす必要があった。入植者たちのパレスチナ人に対する挑発行動を促進し、対立を激化させている。

パレスチナは、さらに分裂を深めた、パレスチナ人のイスラエル内での銃撃作戦を賞賛するハマス、人民戦線などの抵抗勢力、作戦をテロとして非難し、紛争のエスカレートをイスラエルと共同して抑え込もうとする自治政府に対応が分かれることになった。イスラエル、米国からの評判を上げようとするれば、テロとして非難する以外にはなかっただろう。

しかし、アルアクサに対する占領軍、入植者の目に余る蹂躪は、占領地内のパレスチナ人だけでなく、48年領内のパレスチナ人の怒りを拡大させている。イスラエルの政権が2国解決方式に背を向けて、占領地に対する拡張主義とエルサレムのユダヤ化を進めようとしている現在、パレスチナ民衆の抵抗闘争、そして、国際的な連帯の拡大によってしか、イスラエル横暴を止める道はない。



アル・アクサ・モスクが侵害された

投稿：2022年4月23日 | 13:32 (PFLPのホームページより転載)



イスラエル」占領軍と入植者は、4月15日金曜日から、アル・アクサ・モスクを組織的に冒涇し始め、それはまだ続いている。

占領軍兵士は、神殿山(テンプル・マウンテン)の部族壁を乗り越え、岩のドームに女性を幽閉し、礼拝者に

実弾と催涙弾の雨を降らせ、モスクの窓を破り、私たちパレスチナ人数百人を負傷させ、逮捕したのである。

1967年の占領開始以来、イスラエル人は、聖地エルサレムの多くの家屋を取り壊し、そこに入植者のための住宅や地域を丸ごと建設するなど、聖地の特徴を変え、という点でも、また、押し付けたイスラエルのアイデンティティーを住民から引き離すという点でも、特にエルサレム市とその住民を標的にしてきました。最近のアル・アクサの冒涇は、過激派ユダヤ人グループがユダヤ教の贖罪の日を祝うと発表した後に行われた。

イスラエル軍がアル・アクサ・モスクで行った忌まわしい違反行為と、祝福の月に過激派入植者がその聖域を襲撃することを許可したことは、パレスチナ人が宗教儀式を実践する権利に対する意図的な挑発と明白な攻撃であると考えられる。また、アラブ諸国、国際社会、そして10億人のムスリムに対するあからさまな挑戦でもある。

イスラエルは、国連だけでなく国際レベルでアラブ諸国や多くの国々が求める静穏化に関心があるとは思えず、エルサレム市の特別な地位やその宗教的・地理的性

質を変えないことに関するすべての国連決議にも従わない。二つのキブラ（イスラム教徒の祈りの方向は、最初はエルサレムのアル・アクサであったが、その後メッカに変更された）の最初のものであり、二つの聖なるモスクの第三としてそれを仰ぐものがある（メッカのカーバ神殿、メディナの預言者のモスク（いずれも現サウジアラビア）に次ぐ、イスラム教の第3の聖地「岩のドーム」がある）アル・アクサ・モスクの神聖さと何百万人ものイスラム教徒の感情に対するその蔑視に加えて、占領当局は、聖地のランドマークを変更することを目的とした入植計画を支援し、都市のための包括的ユダヤ人化計画を達成するために、元のパレスチナ人の住民を追放しようとしている。

イスラエルは、1967年に占領されたすべての地域、特にエルサレム市において、入植者を包括的にエスカレートさせるよう促した責任を負っており、彼らの街、特にエルサレムの旧市街で平和に暮らす権利を尊重せずに、我々の人々と我々の聖地を攻撃する手を解放したのである。

それだけでなく、イスラエルは、エルサレムだけでなくヨルダン川西岸での入植地拡大を止めるよう、アラブや国際的な呼びかけに応じなければならない。

イスラエル人は、ヘブロン市のイブラヒム・モスクで行ったように、アル・アクサ・モスクを時間的・空間的に分割することを狙っている。また、4月17日にあたる「パレスチナ人の囚人の日」にもアル・アクサへの攻撃が続いたのは偶然ではなく、占領当局はパレスチナ人を窒息させ、さまざまな分野で制限しようと考えているようだ。

一方、占領軍がアル・アクサ・モスクを襲撃し、礼拝

者を意図的に攻撃したことについては、アラブやイスラム、一部の国際的な非難が、パレスチナ人の権利を支持する形で続いている。

他方、パレスチナのアッバス大統領は、アラブおよびイスラム諸国の首脳と何度か接触し、イスラム協力機構首脳会議議長、バチカン法王フランシスコ、国連事務総長、欧州連合理事会議長、アフリカ連合議長、アラブ諸国連盟事務総長宛に書簡を送付した。アラブ諸国は、イスラエルによるアル・ハラム・アル・シャリフへの侵害に対して講じるべき必要な措置に関する立場を調整している。

また、多くの関係者は、パレスチナ指導部およびイスラエル側と集中的に接触し、両者間の広範な戦争に発展しないように努めている。

イスラエルによるアル・アクサ・モスクへの侵害が始まって以来、エルサレム市や占領下のヨルダン川西岸地区の各地では緊張が続き、ヨルダン川西岸地区の市町村で数十人のパレスチナ人が負傷し、数百人が逮捕された。パレスチナ保健省によると、占領軍は4月初めから18人のパレスチナ人を殺害している。

占領当局がアル・アクサ・モスクへの継続的な侵害を止めることはなさそうだ。イスラエルのナフタリ・ベネット首相は、イスラエルの治安部隊に、イスラエルの安全を守るために適切と思われる行動や行動をとる自由を与えたと発表したが、これはパレスチナ人を殺害することを全面的に許可したことを意味する。



投稿日時: 2022年4月29日 | 02:31 (PFLPのホームページからの転載)

今回明らかになった、イスラエルの治安、軍事、政治団体が参加する計画は、占領自治体、アル・クッズ委員会、イスラエル首相、エルサレム問題省、古代遺産局、エルサレムとテルアビブの「ヘブライ」大学の専門家に加えて、「エラド」入植組合が参加するものです…。それは主にバブ・アル・アムード（ダマスカス門）広場をユダヤ化し、アラブ・イスラム都市のランドマークを完

全に変えることを目的としており、バブ・アル・アムード広場は現在、包括的なユダヤ化計画の対象となっており、ユダヤ人の過越祭と占領国の独立記念日と呼ばれる、わが民族のナクバの日の後に、占領自治体の計画・建築委員会に承認を求めて提出される予定である。通常は、旧市街とラマダン中や通常日にアル・アクサ・モスクに礼拝に来る礼拝者の間、ナブルス通りの間…で、これにはバブ・アル・アムード門橋と階段の両脇にある3つの警備塔の整備が必要…この目的のために、占領自治体は門の南側エリアで発掘作業を行った。その入り口は、

オリブの会通信 第18号(通巻24号)

現在、テラスになっている。ベンチ、石のテラス、バラ園の撤去は以前の時期に取り組んだ。リネンの洞窟またはスレイマンの洞窟として知られている方向で、スルタン・スレイマン通りの真ん中に、このユダヤ人化プロジェクトが別のユダヤ人化プロジェクトと出会う場所である。ユスフィヤ墓地の階段が取り除かれ、その墓地にあるパレスチナ人とヨルダン人の殉教者の墓と殉教者の建物を含む区画に、コンクリートの層が流し込まれたのである。その区画と墓の上に、聖書とタルムードの道の一部にする目的で、その地域を公共の国立公園に変えるという口実で、イスラム博物館からワディ・アル・ジョズのヒスバの土地に向かって始まるパラシュティのピラミッドの形をした、別のユダヤ人化プロジェクトに接収される予定である。さらに、イスラム教とキリスト教の寄進地が没収され、バブ・アルーラハマの墓地へのアクセスが奪われ、最下部のブルジ・アルールクルクでは、旧市街に入る深さ6メートルの門のための発掘調査が行われている。

話をバブ・アル・アムード広場のユダヤ化計画に戻すと、これは昨年、ユダヤ化の試運転のために行われ、4月のエルサレムの3つの贈り物でアル・アクサとシェイク・ジャラーが鼓舞し、同年5月の「サイフ・アル・クード」の戦いの根拠となった…。今、このバブ・アル・アムード広場のユダヤ人化計画は、それは大きな敏感さで、占領国家のすべての部門、機関、レベル、そして入植機関や協会がそれに参加しています。それは主に、法外な占領税の重圧に呻吟している旧市街の商業・経済運動を麻痺させ、門からアル・アクサ広場への礼拝者の流れを制御し、出入りする者を統制することを目的としている。

旧市街から、代替のユダヤ人用通路を見つけ、彼は広場を時間的に分割することができた。あの広場は、街の住民にとって唯一の出口を構成し、そこに座ってレクリエーション、文化、遺産、芸術活動を行い、またソフトドリンクや温かい飲み物を販売することができるのだ。

そして、この広場の時間的な区分けによって、占領下の国家と自治体は、ユダヤ教の休日、特に光の祭典と呼ばれるもの間は完全に閉鎖し、アラブ人がタルムードや聖書の儀式を行うために完全に入るのを阻み、イスラムやキリスト教の近隣地域を支配する場合と同様に、この場所に対する支配と主張する主権を宣言することができるのである。

このプロジェクトは、アル・アクサ・モスクに時間的・空間的な分断を押し付けるプロジェクトと重なった。作業は、2022年4月17日のアル・アクサの戦いと呼ばれるものから始まり、すべてに於いて越えてはならない

一線を越えて、アル・キブリ・モスクが襲撃され、礼拝者が逮捕前に残忍な暴行を受け、また、モスクの絨毯が冒涇されたのである。靴と絨毯で、兵士と占領警察、そしてドアや窓、古代のシャンデリアを壊して壊し、聖域にいる人を含め、アル・アクサにいる人の反応を探ったのである。エルサレムと48年領パレスチナ内部からフィールド上の関連する礼拝者を駐留だけでなく、イスラム教寄付、都市の活動や諸勢力の反応は、民族的、政治的、宗教的である。公式当局はヨルダンとパレスチナ、およびガザ地区の抵抗の勢力と諸党派である。

実際、アル・アクサにいた人々の激しい抵抗と伝説的な不動、およびガザ地区から抵抗勢力とその軍事翼によって開始された脅威によって、イスラエルの「内閣」は、シンBETチーフ、内部セキュリティの大臣、および警察署長の存在下で開催されました。ラマダンの月は、物事が歴史的なパレスチナの全領域に影響を与えるだろう民衆蜂起にエスカレートし、より広く、より包括的な方法でセイフ・アルクッズ（エルサレムの剣）2の戦いの前に地域を置く、おそらく歴史的パレスチナの領域を超えて、戦いよりも幾分大きく、地域の参加を得て包括戦争よりも小さいものである。

しかし、より正しいことは、アル・アクサの時間的分割の計画は、アル・アクサの戦いと2022年4月17日のアル・キブリ・モスクの襲撃の日にその「予行演習」であり、それによってアル・アクサにいたすべての人々が、祈る人、退却する人、駐屯する人を含めて追放されたことである。アル・アクサへの過激派グループの急襲と参加でその広場でのタルムードや聖書の儀式のそのパフォーマンスを確保するために、そしてアル・アクサ、空間空間、すべてのための礼拝の自由の口実、占領国、アメリカや西ヨーロッパ諸国によってのみだけでなく、残念ながらアラブ正常化クラブ、「アブラハム」正常化同盟によって推進されている欺瞞と誤解を招くスローガンが唱えられている。

これらのユダヤ人化プロジェクトとアル・アクサの時間的・空間的分割、バブ・アル・アムード広場の時間的分割は、街のランドマークを完全に、包括的に変更し、その全体の光景がアラブ・イスラム・キリスト教の光景ではなく、ユダヤ教のタルムード的聖書の光景として現れるようにし、その物語を変え、その歴史とアイデンティティを改竄する方法で、支配と主権を強化しようとしているのである。それは、ユダヤ人「ISIS」からの過激派集団が国家を支配し、政府の政治的決定、さらには政府の存亡の決定まで支配していることに照らしてのことである。したがって、エルサレムを待ち受けているのは、

アル・アクサとバブ・アル・アムードの門を核とした、多数かつ多重のユダヤ化計画を押し付けるための激しい攻撃であることは明らかである。

したがって、交渉の道と国際的な正当性と呼ばれるものが我々の人々を彼らの権利に導くという政治的昏睡、幻想、現実からの分離の中で生きている人々は、その昏睡から目を覚まさなければならない、その道は権利と土地を失い、土地と人々の分裂をもたらしたただだからである。国際的正統性と呼ばれるものは、ウクライナでその現実をあからさまに露呈した。そこでは、西側植民地勢力とアメリカの虚偽と欺瞞、そして主権、自決、民主、

自由、正義、人間性に関するスローガンがすべて崩壊したのだ。そして、植民地主義である欧米とアメリカの傲慢さと横柄さが、権利、主権、民族の自決権に関する二重の選択的な基準を採用し、難民への対応において人種差別を行ったこと、74年間の占領と我々の民族に対して行われた殺戮、犯罪、弾圧、虐待は、この不正な国際社会が我々の民族に勝利するには十分ではなく、その壊れた国際正統性が入植地の1つのレンガを取り除くことやパレスティナの1つの家の取り壊しを止めることに成功しなかったことに気付かされることになる。



投稿：2022年4月29日 | 02:35 (PFLPのホームページより転載)

敵国政府は7日間、アル・アクサ・モスクのアルモラヴィッドとアル・ムラヴィタに対する抑圧的な措置にもかかわらず、疑惑の神殿建設に備えたアル・アクサ・モスクの時間的・空間的分割のための計画を通過させることができなかった。占領軍は、分割となるように、朝の6時から10時までモスクとその中庭を空にすることに固執した。この期間は、アル・アクサ・モスクの名前を「キブリ礼拝堂」に限定した後の時間的・空間的分裂の変換として、ユダヤ人の存在だけに制限された。”

敵国政府は、多くの湾岸政権やスーダンとモロッコの軍事支配がシオニスト主体との正常化とそれとの暗黙の同盟にエスカレートすることで、パレスチナ人の不満が高まり、申し立てられた神殿の建設に向けたエルサレムとアル・アクサ・モスクのユダヤ人化を進めることができると考えたが、起こったことは正反対であった。正常化と細分化のプロセスは、わが民族を失望させることなく、むしろ敵の計画を阻止するために彼らをより強固にし、決意させた。わが民族が正常化するネゲブ会議に4

回のコマンド作戦で対応し、シオニスト組織を深みから揺さぶり、「存在問題」を入植者に再び突きつけたことは、非常に近い記憶として残っている。エルサレムの剣の歴史的な戦いの後、シオニストが自分たちにそれを突きつけたのだ。

敵シオニストは、エルサレムにいるわが国民と、パレスチナ西岸地区のあらゆるところから、そして1948年の地域からやってくる人々が、胸と拳とどんな石でも使って占領軍兵士に立ち向かう闘いの勢いに驚いたのである。敵は、ラマダンの最後の10日間で入植者の侵入を停止し、4月20日に“神殿グループ”と合意したフラグの行進を防ぐために、いくつかのアラブ政権と約束をしたとき、それは正しかった、そして対立のレベルを減らすために彼の戦略を再考させた - バブ・アル・アムード地域に到達することから。バブ・アル・アムードに様々な地域からエルサレム人やパレスチナの若者が集まっていることに照らして、状況をコントロールできないことを恐れている行進に立ち向かうための準備、これは、一方では、イスラエルのメディアが治安と軍事体制における恐怖の存在について明らかにしていること、抵抗派は、5月にセイフ・アル・クッズ（エルサレムの剣

作戦)の戦いで起こったことと同様に、占領地とその主要拠点に再び彼らのミサイルを発射するだろう(2021年5月)。

この闘争の勢いは、最初に疑惑の神殿の場所で象徴的な行為として、アル・アクサ広場で“生贄の儀式”を阻止し、ユダヤ人の過越祭の日にわたって、占領軍の兵士の保護の下で入植者の数千の“神殿グループ”の目標アル・アクサ・モスクとその中庭を襲撃した。西岸の都市や村から、1948年に占領されたパレスチナの都市や村から15万人のパレスチナ市民はラマダンの第三金曜日にアル・アクサ・モスクで祈るために急いで急いできたとき、アルアクサでの対立は我々の人々に有利に終了すると、それらのほとんどは、たたかいに火を付けるために、Tarawih 祈りの時間まで滞在した。アルアクサ広場では、戦略スローガンによると、「数百万の殉教者はエルサレムに行き、我々はパレスチナを解放したい」と、抵抗とその役割を称え、敵との妥協解決を拒否スローガンである。

一部の反動的でシオニスト的なペンは、抵抗派が「ガザ-ジェニン-エルサレム」の方程式に従って脅威を実行しなかったと言って、ガザ地区の抵抗チャンネルをウイックしようとしたが、この一部の者は二つの事実を意図的に無視した(第一に)抵抗がエルサレムと西岸、1948年に占領したパレスチナ全体に関わる広範な次元を強調したかった、全面的インテリファードに向けて構築できるものをもって、この次元は武装対立で消滅しないようにということであった。

(第二に)ガザ地区の共同作戦室にいるパレスチナのレジスタンスが、引き金に手をかけて状況を綿密に監視し、ガザ包囲網の入植地に向けた数発のミサイルや、カラシニコフからの数発の発射を通じて敵にメッセージを送り、それらのミサイルが敵を混乱させて、攻撃への対応を促していたという事実である。何万ドルもするアイアンドームミサイルに比べれば、たいしたコストのかからない機関銃だ。

さらに、レジスタンスは、ガザ地区中央の壁際にあるレジスタンスの拠点を飛行機が急襲したとき、肩に装着したロシアの「ストレラ」ミサイルでこれに対応し、ガザの空域から逃亡させるというフィールドメッセージを敵に送った。エルサレムとアル・アクサのユダヤ人化計画を継続し、ジェニンで“西岸地区の他の地域でも”大規模な軍事作戦を開始すれば、“Military surprises

await the enemy(軍事的なサプライズが敵を待っている)”というメッセージが込められているのである。

このメッセージは敵に届き、敵はメディアを通じて、ガザ地区を陸海空で厳しく包囲しているにもかかわらず、レジスタンスが軍事力とミサイル能力を回復させたと発表した。そのため、革命の賢人ジョージ・ハバシュ博士の「パレスチナ革命は不可能を可能にすることがわかった」という言葉を引き合いに出す人もいた。そして、ガザでは実際に不可能であったが、エルサレムと占領下のヨルダン川西岸全域の占領措置に逆らい、ジェニンで敵が賭けていた治安調整官を、革命家の手が届く前に革命の胎動から逃げ出すように仕向けているのだ。

自治政府の指導部とその道具である「執行委員会」については、公式のアラブシステムの多くの当事者と同様に、あたかも場外にいるかのように振る舞っている。パレスチナ国民を守るために国際社会に介入を求め、「エルサレムの聖地の歴史的・法的地位を維持する」という言葉を嘔みしめながら、2015年のパレスチナ中央評議会決議、2018年の国民評議会決議、2020年9月にテレビ会議技術を通じて行われた「ベイルート-ラマツラ」書記長会議の決議に反して、シオニスト実体を認め、オスロ合意や治安調整の手法を堅持し、続ける姿を私たちは見ることができるのです。

パレスチナ国民は、エルサレム、ジェニン、ヘブロン、ナブルス、ベツレヘム、ペイタ、パルカ、ウムアルファム、ナザレ、ハイファ、ヤッファ、ネゲブでセイフアルクードの戦いの成果を今も積み重ねている。そして、イブラヒミ・モスクで起こった、街を2つの部分(H1)に分割したヘブロン協定の結果としての時間的・空間的分割が、パレスチナ人の管理下と(H2)イスラエルの治安管理下にあることを、実践を通して確認し、それを繰り返さないようにすることである。

ここで注目すべきは、1997年にヘブロン協定をめぐって敵シオニストと交渉したファタハ運動の指導者ナビル・シャアスが、シオニスト側の要請により、歴史的名称の「イブラヒミ・モスク」の代わりに聖書用語「預言者たちの墓」を協定に盛り込むことに合意していたことである。シオニスト団体がイブラヒミ・モスクを時間的、空間的に分割するために、この協定と用語を政治的な隠れ蓑として利用したところである。



戦線の第8回全国大会 民族と社会の進歩のための拠点

投稿：2022年4月23日 | 13:31 (PFLPのホームページより転載)

人民戦線の全国大会は、パレスチナ解放機構における戦線の役割を強化し、パレスチナの大義に民族解放の次元を回復させるためのビジョンを打ち出すために、必要かつ重要な局面となるものである。世俗的な民主主義国家のスローガンを考慮すると、このスローガンは1967年6月4日の国境の独立国家を支持してパレスチナの政治的議論から無視され、ドロップされた。独立国家は、パレスチナ右翼同盟が提供する譲歩を受け入れなかったイスラエルの侵略によって捨て去れたされたスローガンである。アラブの権利の支持、オスロ合意はパレスチナ人に彼らの不完全な権利を与えるとパレスチナとアラブの人々はだまされました。

すべてのパレスチナの譲歩にもかかわらず、イスラエルの破壊的な侵略は、パレスチナの大義のための国際的な、アラブの支援を弱め、パレスチナ右翼連合によって選ばれた調停者によってサポートされて、イスラエルの征服的侵略に有利な力のバランスによって支配二国間交渉の枠組みの中で解決しなければならない問題にそれを回すための手段としてオスロ協定を扱いました。

世俗的な民主主義国家のモットーは、パレスチナ国民憲章で満場一致で合意されたパレスチナ人のモットーであり、パレスチナにおける社会的勢力のバランスを反映した国家の性格に民主主義の次元を与える。それはパレスチナ人の民族的権利を回復する入り口と考えられ、それは、イスラエルのヨルダン・オプションの扉を閉ざすものである。それは、イスラエルのビジョンと互換性のあるアラブビジョンを組み立て、パレスチナ人をその土地に食い止め、包囲する入植現実を無視した状態を課すことによって、今も実行に移そうとしている。それは、パレスチナ難民問題を忘れ、すべての当事者が解決する責任を負う人口問題であるとみなしている。パレスチナ民主国家のスローガンは、民族解放の解決策を弱体化させ、宗教的な物語の正当性をめぐる闘争や、宗教的な物語に基づく聖地とその歴史的所有権の権利をめぐる闘争に紛争を変えようとする宗教的要請の扉を閉ざしてい

る。

人民戦線は、4つのサークルに属するパレスチナの社会集団の国益を反映する民主的な民族組織である。したがって、左翼のアイデンティティを持つ戦線は、宗教的物語、その正当性、そして対立する当事者が復活の日に会う来世への先送りをめぐる論争から離れ、この社会的多様性を反映するために、政治的、組織的、知的立場を再配置する課題を抱えている。

知的に。

人民戦線は、社会的生産過程における地位にかかわらず、すべてのパレスチナ人のために民族解放の使命を担う政治組織である。この使命のために、パレスチナ解放人民戦線という名称が必要とされた。民主的な次元を重視しない右派と区別する社会的な次元である。

将来のパレスチナ国家の生産関係の性質に関しては、その決定は、民主主義国家の枠組みの中での社会的・政治的勢力の対立に反映される。それは、一連の内的・外的要因が重なり合う内部プロセスである社会的勢力のバランスを必ず反映しなければならない。

組織的に

知的本質が戦線に反映されなければならない。民族解放と民主主義のエリートをまとめる枠組みとして人民解放の組織方式があり、左翼民主主義のアイデンティティが戦線の政治的、組織的、社会的道筋を支配する基準であり、その調整役として、パレスチナの大義のための民族解放という特徴を持たなければならない。

内部の組織レベルについては、政策決定への積極的な参加という点で、パレスチナの状況とそのディアスポラを考慮した改正が絶対的に必要である。例えば、書記長職ではなく、書記局のための委員会を設け、この組織的立場を崩そうとする動きには、内面的に予定された立場として対峙する必要がある。

オリープの会通信 第18号(通巻24号)

また、この紛争は、民族解放の性格をもつものではなく、むしろユダヤ人の再抹殺を望む宗教的性格をもつテロ組織との紛争であるという扇動的なシオニスト・メディアの吹き込みによって後退したパレスチナの大義に連帯し、政治状況の進展を考慮した外交政策を立案するために、各地のパレスチナ人コミュニティから政治、法律、経済、社会面に詳しい戦線のメンバーや支持者が参加して、政治委員会を結成することが重要である。政治生活への参加と交流、政治・メディア機関への統合を通じて働くシオニスト扇動に立ち向かうための内部政治行動に共同体を誘導することが、緊急課題となっているのである。

大会は、政治的・組織的な力学を活性化し、パレスチナの状況と、場所と時間という分布の特異性を考慮し、あらゆるレベルでのプログラム設定に比較的独立性を与える内部規則における方向性を通じて、内部民主主義を強化する方向性を打ち出すべきである。この点で、メディアコミュニケーションの手段を強化し、開発することは緊急の課題である。特に、パレスチナの闘いを歪めるために地元の法律を使い、組織的に向けられた大規模な扇動に立ち向かうために、戦線は犯罪者と表現する占領の犯罪に苦しむ囚人や拘禁者に取り組む一方で、彼らを支配する法律は国際法に従って占領法であり、法的信頼性がないことに注意しなければならず、これにはパレスチナ人のとりこわし、土地接収、市民権の政策が含まれている。

政治的に

戦線の主な任務は、パレスチナ統一の愛国主義を再考し、その民族解放の次元ですべてのパレスチナ人諸派と協力し、オスロ合意実施の要件のために、パレスチナの民族行動から組織的に排除されてきたすべてのパレスチナ人集団に対処し、パレスチナ統一の民族解放精神を回復することである。

安全保障、政治、観光、聖地の枠組みの中で、4、5、6党委員会の形成を通じて、世紀の取引を実装するための実用的な手順で始まったクシュナー閣僚グループのベエルシェバ会議の決定に直面して阻止するタスクは、その独立から遠い、パレスチナ自治政府をその枠組みの中で消化、統合しようとするものである。むしろ、それは自治政府の要素の個々の表現とエジプトやヨルダン委員会の間でその分布という枠組みの中での話しである。

ヨルダンの立場は、まだイスラエルとの共同委員会の枠組みの中にパレスチナの利益を統合するために、アメリカの圧力に苦しんでいる。1947年11月29日の第181号決議、パレスチナ分割する決議から生まれたアラブ国家として、パレスチナの大義をヨルダンオプションとするために、イスラエルの鉱山としてそれを見ている。

国際的な動向はまた、ポストウクライナの危機は、多極化した政治的、経済的世界になるという事実で動作するように方向に進んでおり、この文脈では、アラブと地域グループの政治的、経済的自立を支援に向かって押すことが必要である。イスラエルは新しい地政学的変化に苦しむことが明らかである。それは、選択肢と既存の国際権力の間で反対勢力を操作することからの出口を減されるためである。

イスラエルがイランとの対決という名目で地域同盟を結成しようとしているのは、形式的にはそうだが、本質的には、ウクライナ危機を踏まえて米欧の役割が低下した結果、イスラエルの立場がロシアや中国の立場と対立し、その役割が低下することへの恐怖から生じているものである。

地域連合は、その主導権を握ろうとしているが、将来の変化が侵略と人種差別の継続に及ぼす影響を緩和することを目的としている。もし、その変化が、市民の人権と宗教的権利および平等性を考慮に入れておらず、市民のークラスのための宗教国家として公然と宣言するという点で、分割決議に違反していることが示されれば、その法的基盤を損なうことが可能であろう。これは、法律専門委員会の設立を発表することによって、その実践が決議181と194でユダヤ国家に指定されたものと矛盾するユダヤ国家の法的基盤を損ない、南アフリカのapartheidに関する1964年の国連決議191から利益を得ようとする、正面会議が関心を持つべき法的側面である。そして、国際法に反し、それを無視したイスラエル国家の組織的慣行として人種差別的な攻撃的慣行を調査する要求である。このことは、1948年地域のパレスチナ人の大衆を最も重要視し、人種差別の政策に苦しんでいる本物のパレスチナ人の一部であり、彼は1948年からそれらの生き証人であることを考慮し、人種差別占領に直面しているすべての勢力の国家努力を統合するために対話を開始する作業を行うことを必要とします。

パレスチナ問題が通過している段階は危険であり、通

常のパターンから逸脱した方向と決定を必要とし、民族解放、社会的、民主的パフォーマンスに反映される思考の変化があることに希望を与えていることは、もう一度強調する価値がある。

パレスチナ日誌

2022年3月

3月1日

- ・ 占領軍のボートがガザ海の漁師を標的にした。
- ・ 入植者たちが、西サルフィットの家族を攻撃した。
- ・ エルサレムで、数十人が逮捕され、負傷した。
- ・ 中央ヘブロンでの衝突で負傷者
- ・ ガザで、獄中者の蜂起に連帯する大規模なデモが行われた。
- ・ ベツレヘムで獄中者に連帯するスタンディングが行われた。
- ・ イスラエルとアメリカのドローン攻撃を撃墜するための空軍演習が行われた。
- ・ ガザのコロナ、9人死亡、188人の新たな感染者
- ・ 民族イニシアチブ：占領当局は、ウクライナの県を、パレスチナ民衆に対する犯罪のエスカレートに利用している。
- ・ イスラエル最高裁、シェイク・ジャラからの4家族の追放を凍結
- ・ 占領当局は、ヤバド、二人の子供を逮捕し、数十人が窒息した。
- ・ カルキリヤで獄中者支援の怒りの日と連帯のスタンディング
- ・ 獄中者に連帯するヘブロンの行進
- ・ 民主戦線：ジェニンの殉教者を追悼し、抵抗のエスカレートを呼びかけた。
- ・ ベイト・ウマルでの獄中者との連帯の行進で衝突が起こり、窒息者
- ・ ヘブロンでの衝突で二人のジャーナリストを含む、負傷者。

3月2日

- ・ ベツレヘムの南で、占領軍の銃撃で青年が殺される。
- ・ サルフィットの東で、入植者たちが、タイヤを破り、スローガンを書いた。
- ・ 西岸で、大量逮捕キャンペーン
- ・ 昨日、ウクライナから111人の学生と市民が避難してきた
- ・ バブ・アモウドでの獄中者との連帯のスタンディングで、青年が逮捕され、撤退した。
- ・ ガザ北部のベイト・ハヌーンの検問所で市民が逮捕された。
- ・ 占領当局は、ヤッタの東で、工事の停止、取り除きの通知を渡した。
- ・ エルサレム：2月中に、210人の逮捕と、24件の取り壊しとブルドーザーをかけた
- ・ ガザのコロナ、8人死亡、418人の新たな感染者
- ・ 入植者と占領軍はシェイク・ジャラを兵舎に変えた
- ・ アル・アロウブキャンプでの殉教者アマール・アブフィファの葬儀の後の衝突で、負傷者。
- ・ ガンツ：イスラエルは、即座に、ガザからの労働者の数を増やす。
- ・ アル・アロウブの衝突で、ゴム被膜弾で、2人の青年が負傷した。

3月3日

- ・ エルサレム地区のヒズマ村で入植者が刺された。
- ・ ガザ、デル・アルバラの東で占領機甲部隊の限定的な侵襲
- ・ 占領軍、西岸で逮捕キャンペーンを開始
- ・ シェイク・ジャラ近隣で入植者たちの行進とパレスチナ人への弾圧。
- ・ 占領当局は、ツバスのが市で5人の青年を逮捕した。
- ・ シェイク・ジャラの人々：我々の家の所有権を証明する法的な闘いはまだ終わっていない。
- ・ 占領当局は、元エルサレム大臣のハレド・アブラファを釈放した。
- ・ パレスチナのコロナ、15人死亡、861人の新たな感染者
- ・ ガザのコロナ、6人死亡、315人の新たな感染者。
- ・ イスラエルは、C地区での建設と闘うために、特別部隊をつくることを

計画している。

- ・ 入植者たちは、北部ヨルダン渓谷にテントと小屋の建設を始めた。
- ・ 占領軍は、軍事検問所でジェニンキャンプの青年を逮捕した。

3月4日

- ・ カフル・カッダムの行進の弾圧で、占領軍の銃弾で、2人が負傷し、数十人が窒息した。
- ・ ナブルスの南の衝突で、ゴム被膜弾で238人以上が負傷した。
- ・ 取り壊しの決定に対する拒否と抗議—数百人がジャバル・アルマッキで金曜礼拝を行った。
- ・ 制限にも関わらず、アル・アクサで5万人が礼拝した。
- ・ ガザのコロナ、5人死亡、275人の新たな感染者
- ・ パレスチナのコロナ、13人死亡、797人の新たな感染者
- ・ 1555人のウクライナ人がイスラエルに到着した。
- ・ ヘブロンで、入植者の銃弾で4人の市民が負傷した。
- ・ エルサレムのベイト・ドクの村で占領軍との衝突。

3月5日

- ・ ガザのコロナ、3人死亡、35人の新たな感染者
- ・ 報道—占領当局は、非難したウクライナ人を入植者として受け入れる準備をしている。
- ・ モスクワでベネットはプーチンと会談した。
- ・ 占領軍は、アル・コッズ大学を襲撃した。
- ・ パレスチナのコロナ、7人の死亡と357人の新たな感染者
- ・ 北部ガザで占領軍の船は漁師を標的にした。

3月6日

- ・ エルサレムのバブ・ハッタ近くで占領軍は青年を撃ち殺した。
- ・ ガリリーでイスラエル軍が演習
- ・ 入植者たちは、ヤッタの東で、300本のオリーブの木とアーモンドの木を根こそぎにした。
- ・ カフル・アッディックで190本のオリーブの木を根こそぎにし、盗み、農業部屋を破壊した。
- ・ パレスチナのコロナ、4人死亡、557人の新たな感染者
- ・ 占領軍はバブ・ハッタの殉教者の家を急襲し、母親と兄弟を逮捕した。
- ・ 占領軍は、ヘブロンとベツレヘムで5人の市民を逮捕した。
- ・ ガザのコロナ、一人死亡、197人の新たな感染者。
- ・ 占領軍は、獄中者ルバ・アシを釈放した。
- ・ エルサレムで、ユダヤ人による2件の教会への攻撃があった。

3月7日

- ・ 占領軍の船がラファの西で、漁師の船に発砲した。
- ・ シャケド：イスラエルは、10万人のウクライナのユダヤ人を受け入れる準備をしている。
- ・ 占領警察は、シェイク・ジャラの近隣からバリアーを取り除く、極右のピン・ガフィールのテントをリストに入れた。
- ・ コミッションとアル・ハクは、ニザール・バナトの殺害にいての協同の事実検証の報告を発行した。
- ・ ガザのコロナ、一人死亡、273人の新たな感染者
- ・ 占領軍は、ガザの農民と労働者にサイルガスを発射した。
- ・ パレスチナのコロナ、2人死亡、598人の新たな感染者
- ・ ベネット：ウクライナのユダヤ人のイスラエルへの急襲は、“歴史的任務”
- ・ エルサレムで、刺殺攻撃の口実で、負傷している青年に銃撃した。

3月8日

- ・ 占領軍は、シラト・ハシヤを急襲した。
- ・ 占領軍によるシラット・アル・ハリヤ襲撃の際の轢き逃げ事件で兵士2名が負傷し、犯人が逮捕されました
- ・ シェイク・ジャラで3人のエルサレム人が逮捕された。
- ・ イスラエルはエルサレムで警戒のレベルをあげた。
- ・ 国際女性デー：占領軍は、2022年の初めから8人の女性ジャーナリストを標的にした。
- ・ イスラエルは、西岸の諸大学への外国人講師、学生へのあらたな制限を発表した。

オリーブの会通信 第18号(通巻24号)

- ・イスラエル外相：ウクライナ戦争と核交渉は、世界を変える。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、211人の新たな感染者
- ・ジェニン：殉教者と獄中者の母親たちが、遺体の返還と子供たちの釈放を要求した。
- ・パレスチナのコロナ、5人死亡、465人の新たな感染者

3月9日

- ・占領軍は、ガザの農地に向けて、発砲した。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、55人の新たな感染者
- ・占領軍は、西岸で20人のパレスチナ人を逮捕した。
- ・サイレナイカで、占領軍の銃撃で青年が死亡
- ・イランは、ダマスカスの爆撃で2人の革命防衛隊員が死亡を発表し、報復を宣言。
- ・イスラエル政府は、ハーン・アルアハマルの退去の決定を7回目の延期を要求。
- ・占領当局はサルフィットの西で、建設作業の停止を通告。
- ・占領当局は、ヤッタの東で、5つの家の建設を止める通知を行った。
- ・パレスチナのコロナ、6人死亡、203人の新たな感染者
- ・逮捕され自宅監禁に至るまで子供のアルークナイビに殴打され攻撃された明確なサインがある。
- ・イスラエル当局は、ネゲブの二つの家を取り壊した。
- ・ハーレツ紙：イスラエルは、毎年1万人以上のパレスチナ人の旅行を阻止している。
- ・占領当局は、ヘブロン南部で、一軒の家を取り壊した。
- ・シェイクは、イスラエルの外相と歓談し、重要なファイルについて協議
- ・イスラエルは、ロシアとウクライナからの100万のユダヤ人を受け入れる準備をしている。
- ・サイレナイカでの衝突で、占領軍の銃弾で少年が負傷した。
- ・イスラエル大統領が、関係改善のためにトルコを訪問。
- ・ヘブロンで、占領軍による殉教者の葬儀への急襲で、3人の市民が負傷した。

3月10日

- ・イスラエルは、ウクライナへの侵略を非難したにも関わらず、シリアでのモスクワとの調整を続ける。
- ・前米国副大統領がイブラヒムモスクを急襲
- ・青年が負傷した。占領軍は西岸での逮捕キャンペーンを開始した。
- ・イスラエル最高裁は、壁の後ろにある孤立した農地に農民がはいることを禁止していることをキャンセルにした。
- ・イスラエルはネゲブに、都市と入植地の建設を計画している。
- ・占領軍は、ガザの漁師と農民をターゲットにしている。
- ・ガザのコロナ、3人死亡、215人の新たな感染者
- ・家の取り壊しに抗議してジャバル・ムカベルで全面スト
- ・占領軍は、西岸のハマスの活動家を逮捕した主張
- ・占領当局は、ジェリコで数十の家の建設の停止と擁壁の取り壊しを通知した。
- ・パレスチナのコロナ9人の死亡、327人の新たな感染者
- ・MADA:2021年にパレスチナでメディアの自由に対する562件の侵害があった。

3月11日

- ・ハマス：統一リストは、我が人民を代表していない、占領支持する立場にある。
- ・ガザのコロナ、一人死亡、136人の新たな感染者
- ・クネセットは、いわゆる家族統合禁止法を承認した。
- ・占領軍は、アルーツワナ村を急襲し、住民を攻撃した。
- ・カフル・カッダムの行進の弾圧で、数十人が窒息した。
- ・占領軍は、シェイク・ジャラに検問所を再設置した。
- ・西岸の数百人の住人が、追放され、アルアクサに入ることを阻止された。
- ・入植者たちは、ヤッタの東で羊飼いに銃撃
- ・6200人のウクライナ人がイスラエルに到着した
- ・入植者たちは、ヤッタの東でキャラバンを設置し、ジェニンの羊飼いに

銃撃

3月12日

- ・情報筋：イスラエルの参謀長が、カタールの高官とあった。
- ・過去10日間に、14機のロシアの自家用機が着陸した。
- ・ガザの勢力と派閥は、内地のパレスチナ人を支援し、サポートするための民族機関の結成を発表する
- ・ガザのコロナ、7人死亡、27人の新たな感染者
- ・ワシントンは、イスラエルにモスクワに対する経済制裁に参加するように要求。
- ・米国議会が、2億5千9百まんどのパレスチナへの援助を承認した。
- ・エルサレムに730の入植地住宅の建設計画が承認された。
- ・パレスチナのコロナ7人死亡、79人の新たな感染者
- ・キサン村で入植者たちが3人の女性に唐辛子ガスをあびせた。

3月13日

- ・イスラエル首相とゼレンスキーが会談
- ・パレスチナ外務省：国際的な制裁が、イスラエルに国際法を順守させることを強制するために必要としている。
- ・イスラエルの飛行機が、デイルバラの東のパレスチナの農地に有毒な殺虫剤をまいた。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、84人の新たな感染者
- ・入植者が、手コアの二つの学校を銃撃した。
- ・占領軍は、西岸で5人の市民を逮捕した。
- ・極右MKベン・ガフィルがシェイク・ジャラを急襲した。
- ・パレスチナのコロナ、4人死亡、192人の新たな感染者
- ・入植者たちがヨルダン渓谷で、新たな入植地住宅の建設をはじめた。
- ・ハマス：自治政府の部分選挙の追及は現在存在している独占的な状態を反映したものである。

3月14日

- ・占領裁判所は、ハーン・アルアハマルのケースへの政府の回答に4か月を与えた
- ・パレスチナのコロナ、6人死亡、214人の新たな感染者
- ・占領軍は、 Beit・サハウルのシェフェード・フィールド病院を急襲し、捜索した。
- ・占領当局は、マサフェール・ヤッタの学校と8軒の家の取り壊しと建設の停止を通知した。
- ・20年たつて、イスラエル最高裁は、マサフェール・ヤッタの8つの村の撤去について検討する
- ・占領軍は、ベツレヘムの東で、集中的な削地作業を行った。
- ・イスラエルは、ネゲブで更地にする作業を再開。
- ・Beit・ハヌーンに対する占領軍機甲部隊の限定的な侵襲
- ・ガザのコロナ、3人死亡、115人の新たな感染者
- ・EUの代表が、ガザに到着した。
- ・占領軍は、西岸で12人のパレスチナ人を逮捕
- ・シンベトの長官が、ワシントンを訪問し、エルサレムのエスカレーションの可能性について警告した。

3月15日

- ・エルビルの爆撃のあと、イスラエルは、北部の警戒のレベルを上げた。
- ・革命防衛隊、イランのフェルドリアクターの爆発の数日前にモサドの細胞を逮捕した。
- ・占領軍は、西岸で13人の市民を逮捕した。
- ・バラタ難民キャンプで、占領軍の銃弾で少年が殺された。
- ・ユダヤ機関：毎週2000人のユダヤ人移民がイスラエルに到着する。
- ・占領軍は、サルフィットで、5人の市民を逮捕した。
- ・ラハトで、青年がイスラエル警察撃ち殺された。
- ・サルフィットの西で、入植者たちが、200本以上のオリーブの木を根こそぎにし、盗んだ。
- ・諸勢力は、パレスチナの民衆に、民衆抵抗を強めるように呼び掛け
- ・3000人のエチオピアの移民がイスラエルに来る途上にある。

・ガザの抵抗勢力、占領軍に対する闘いはすべての分野に開かれている。

3月16日

- ・極右 mk ベンギビールがシェクジャラを急襲
- ・占領軍は、ガザ国境で青年を逮捕した。
- ・西岸への侵攻で、青年が負傷し、逮捕された。
- ・48年領内のラハトでストが行われ、殉教者アルーハーベットの殺人者の裁判を呼びかけた
- ・占領当局は、ベイト・サファファで、新たな入植地計画を履行するために削地している。
- ・マルハ村の一部で、入植地のプロジェクト
- ・パレスチナのコロナ、6人の死亡と312人の新たな感染者。
- ・ガザのコロナ、3人の死亡と、64人の新たな感染者
- ・サルフィットで、2回目の入植者たちが、オリーブの木60本を伐採した。

3月17日

- ・イスラエル飛行機がデイル・アルバラの東に正体不明の殺虫剤をまいた。
- ・ガザのコロナ2人死亡、75人の新たな感染者。
- ・占領軍の艦船が、北部ガザの海で、漁師を標的にした。
- ・占領軍は、西岸とガザで15人の市民を逮捕した。
- ・入植者たちは、アルアクサを急襲した。
- ・イスラエルは、レーザーで、ミサイルを迎撃するシステムを開発し、ガザとレバノン国境に設置される。
- ・占領当局は、サルフィットの西のエルーディックで建設を中止するようという通知
- ・ユダヤ教の祝日を口実に占領軍はヘブロン旧市の閉鎖した。
- ・ナブルスの東で、二人の少年が逮捕された。

3月18日

- ・ベツレヘムで、第8回パレスチナ国際マラソン
- ・占領軍は、ミサイル、航空機に対する初めてのレーザーシステムを公表した。
- ・ガザのコロナ、3人死亡、99人の新たな感染者
- ・占領軍は、ガザ市の東に発砲
- ・カフル・カッダムの行進尾弾圧で8人の若者が占領軍の銃弾で負傷し、数十人が窒息した。
- ・1万2千人以上のウクライナ人がイスラエルに到着
- ・ネゲブの拘束センターで、緊張が高まっている。
- ・我々は生きたい運動は、ヘブロンで日曜日に全面的ストを呼びかけ
- ・占領当局は、ラマダンの間にエルサレムの状況に点火することを計画した細胞を逮捕したと主張。
- ・レバノンは、米国に、海洋国境を引く努力をするように呼び掛けた。
- ・イスラエルは、米国にイラン革命防衛隊をテロリストリストから外さないように呼び掛け
- ・入植者たちの攻撃のあと、占領軍は、ラス・アルアムドで3人の青年を逮捕した。
- ・アサドがUAEを訪問した。

3月19日

- ・ガザのコロナ、2人死亡、9人の新たな感染者・
- ・ハマス:刺殺作戦は、抵抗行動のエスカレーションを確認するものである。
- ・エルサレムで、青年が銃撃される。
- ・占領軍は、ハーンユニスの農地に向かって発砲した。
- ・シャケド:約8千人のウクライナ人は、イスラエルの市民権を得ることはできない
- ・ガンツは、米国の国防長官と、核合意とウクライナの仲介の詳細について協議した。
- ・占領軍は、アルーイサウイヤを急襲し、市民の家を襲撃した。
- ・イスラエルは、数年間で最大の空軍演習に参加した。
- ・米国国務省:2国家解決方式が紛争解決の最善の方法である。
- ・イスタンブールで、40か国の学者とイマムの参加のものでエルサレム将来について協議された。
- ・占領当局は、エルサレムの知事の旅行を阻止した。

3月20日

- ・イスラエルの車両に投石、入植者たちが負傷。
- ・ロシアの軍事作戦が開始されて以来1万3千人いじょうのウクライナ人がイスラエルに到着している。
- ・エルサレム知事が釈放された
- ・ガザのコロナ、一人死亡、43人の新たな感染者
- ・シンベトは、イランのためにヒズボラにリクルートされた容疑で4人のパレスチナ人が逮捕された。
- ・容疑者は引き上げた—エルサレムの刺殺攻撃で2人の警官が負傷した。
- ・パレスチナコロナ、4日間で13人が死亡、574人の新たな感染者
- ・ヘブロンへの衝突で、実弾で青年が撃たれ、負傷した。
- ・世論調査:48年領内の94%のパレスチナ人は人種主義と差別の対象となっていた。
- ・占領当局は、5年間の拘束のあと、ハーンユニスの出身の獄中者を釈放した。

3月21日

- ・占領軍は、ガザ回廊から侵入したパレスチナ人たちを逮捕した。
- ・占領政府は、イランと対峙する新たな防衛計画を承認した。
- ・占領軍は、ジェリコのファタハの書記を逮捕した。
- ・イスラエルは、ウクライナから273人のユダヤ人の到着を発表した。
- ・ガザのコロナ、2人死亡、94人の新たな感染者。
- ・ナブルスで、遺体が返還されていない殉教者の家族と連帯するスタンディングが行われた。
- ・ガザは、3月25日に獄中者との連帯テントを設置することを決めた。
- ・ユダヤ機関:数千のウクライナ難民をイスラエルへ拡大する計画を準備している。

3月22日

- ・人権団体と学会は国際社会にイスラエルに制裁を課すように呼び掛けた。
- ・ラマダンをさけるために、イスラエルは、獄中者が無期限ハンストが継続しないように取引を持ち出している。
- ・西岸での逮捕と襲撃
- ・占領軍の艦船がガザの海で、漁師に発砲した。
- ・UNRWAがハーンユニスで、都北大震災11年を記念する日本との連帯イベントを主催した。
- ・占領当局は、ツバスの東の二つの畜産小屋の取り壊しを通知
- ・ガザのコロナ、2人死亡、61人の新たな感染者

3月23日

- ・ナブルスの南で、入植者たちがパレスチナの車両を攻撃
- ・西岸とエルサレムでの30人の市民の逮捕
- ・民主戦線は、ベールシバ作戦を賞賛し、抵抗の継続を確認。
- ・ガザのコロナ、死者なし、50人の新たな感染者
- ・占領軍は、ハーンユニスの南とラファの西で発砲。
- ・イスラエル政府は、ネゲブで10個の入植地の設置を承認するつもりである。
- ・パレスチナのコロナ、8人死亡、514人の新たな感染者
- ・ヒズボラ:ベールシバ作戦は、パレスチナ民衆のジハードの精神の表現である。
- ・占領軍は、アブデイスで、17人の市民を逮捕した。

3月24日

- ・MADAは、ジャーナリストのアルータウィールとすべての拘束されているジャーナリストの釈放を呼びかけた。
- ・占領軍は、ベイト・ハヌーンの検問所を通り抜けようとした市民を逮捕。
- ・占領警察は、エルサレムの旧市で、2人の少年を逮捕した。
- ・入所者たちは、シェイク・ジャラの近隣で、15台の車両のタイヤを破壊。
- ・占領軍の西岸への襲撃で、5人が負傷し逮捕された・
- ・国際連帯運動は、占領軍の二人の子供に対する脅しと拷問を記録した。
- ・ナブルス、入植者たちが、ジッタ・ジャマイン村のモスクの一部に火をつけた。
- ・地中海でのNATOの海上演習がアラブ諸国とイスラエルの参加のもとに

オリーブの会通信 第18号(通巻24号)

行われた。

・占領軍は、アルツールとラス・アルアムドの二つの家を急襲した。

3月25日

・イスラエル安全保障代表団がインドを訪問し、安全保障関係の強化について話し合った。

・イスラエル：我々はウクライナ危機に対して中立的な立場であり、シリアの捕虜となっているパイロットのことを恐れている。

・アメリカの中東研究協会は、公式にイスラエルボイコットを決定した。

・48年領内とエルサレムのパレスチナ人のイスラエル市民権の撤回の法案が提出された。

・イスラエル軍は、エルサレムの少女を逮捕した。

・占領軍は、ジャバル・ムカベルの青年を逮捕した。

3月26日

・西岸で、第二段階の地方選挙の投票が開始された。

・イスラエルは、ラマダンの間、入植者たちが、アルアクサを急襲することを許可した。

・ネゲブで、数百人の市民が、土地の日を祝った。

・ガザで、土地の日を記念して、帰還キャンプで大規模なデモが行われた。

・シリワンで、ワディ・アルーラババの土地を「聖書」公園にすることに反対するスタンディングが行われた。

・入植者たちは、シングルスの家に侵入しようとした。

・ファタハは、選挙での大勝利を発表した。

3月27日

・テルアビブで、数十人がロシア支持のデモをおこなった。

・ハマスは、海に向けて6発のミサイルの実験を行った。

・武装入植者は、ラマダンの間シェイク・ジャラに存在することを準備している。

・48年領内、テルシェバで青年が銃撃で殺された。

・パレスチナのコロナ、6人の死亡と282人の新たな感染者

・入植者が、バブ・アルハリール公園のホテルを襲撃し、弁護士と2人の若い入植者が逮捕された。

・一週間で、ガザのコロナ、4人死亡、336人の新たな感染者

・人民戦線：ネゲブ会議は、新たな中東プロジェクトの線引きである。

・ハマスはイスラエルの当局者と会談するアラブ外相たちを非難した。

・極右ベンギビールが入植者たちとともに、シェイク・ジャラを急襲した。

・MK アイマン・オデーは、ネゲブ会議を批判。

・イスラエル政府は、ガザからの労働者の割合を増加せることに合意した。

・入植者たちは、ナブルスの南のクスラの土地に、キャラバンを設置した。

3月28日

・イスラエル：平穩は、ガザの労働者により多く雇う機会を提供する。

・ラビド：イスラエルは、イランの核を阻止するためにあらゆる必要なことをおこなうだろう。

・ダモン刑務所の前で、女性獄中者を支援するスタンディングが行われた。

・プリンケンは、イスラエルに、地域に火をつけるようなあらゆることをやめるように呼び掛けた。

・ヨルダン王は、パレスチナ大統領と会談した。

・ウム・アルファムでの逮捕。イスラエルは、実行者が、海外からの指示を受けていたかどうかを検討している。

・占領軍は、 Beit・ハヌーンの農地に、発砲し、催涙ガスを発射した。

・占領軍は、 Beit・アイヌンの交差点とバニ・ナウムへの入口へのパイパスを閉鎖した。

・占領軍は、西岸のつなぎ目になる地域に部隊を増強することを決定した。

・エルサレムのバブアルサヒラで青年が逮捕された。

・アッパースは、米国の国務長官と会談。

・ナブルスの東、ルジブで、占領軍はトラックタ〜を没収し、運転手を逮捕した。

・ヨルダン国王が、ラマラに到着した。

・イスラエル：ネゲブサミットをパレスチナを含むすべてに開かれたフォーラムに変える。

・ドルーズアラブ委員会は、土地の日、スラタン・アルアトラシ、カマル・ジュンブラットを記念した。

・ハデラ作戦のあと、イスラエル人の武器の所持が700%以上にジャンプした。

・土地の日を統一した活動を行うことで合意

3月29日

・ベールシバとハデラ攻撃後、イスラエルのセキュリティに7つの指示。

・入植者たちは、ラマラとナブルスの市民の車を攻撃

・占領軍は、エルサレム地方のファタハの2人のメンバーを尋問のために召喚した。

・イスラエルの新聞、ハデラ作戦のあとシンベトは失敗を認めた。

・イスラエルは、米国の第五艦隊と海上演習の開始を発表。

・エルサレムと西岸に拡大される。イスラエルは、48年領内での”壁”の守護者2“の実行を準備している。

・占領軍の船が、北部ガザ海で、漁船に向かって機関銃を発砲した。

・イスラエルの治安相が、ひそかにヨルダンを訪問した。

・48年内の都市での逮捕キャンペーン、つぎの攻撃はさけられない。ピンがビールがアルアクサを襲撃すると脅している。

・モロッコ、UAE、バハリーンは、イスラエルに防空システムを提供することを要求した。

3月30日

・入植者たちは、ジェリコの西に、新たな前哨地を作った。

・西岸での逮捕キャンペーン、殉教者の娘も含まれていた。

・土地の日46周年、パレスチナの85%以上の土地は占領されている。

・民主戦線：テルアビブ作戦は、占領反産に対する自然な対応である。

・占領軍の兵士が、エツィオン交差点で数十台の車を押収した。

・入植者たちが、イブラヒミモスクの近くで遊んでいた

・抵抗委員会：ベネイ・バラクの銃撃は、イスラエルの治安体制の失敗の新たな証明である。

・ハマス：ベネイ・バラク作戦について、占領の犯罪とテロに対抗するの合法的な権利である。

・イスラム聖戦：テルアビブ作戦は、占領当局は、その犯罪に対して対価を支払わなければならないことを確認した。

・アッパーズ大統領は、ベネイ・ブラク作戦を非難した。

・入植者たちは、サルフィットの北、マラダ村の市民の家々を攻撃した。

・ドラの南の、占領軍キャンプに複数の火炎瓶が投げられた。

・入植者たちは、プリンとブルカ近くで、市民の複数の車を攻撃した。

・イスラエル軍は、ガザ国境に部隊を増強することを決定した。

・パレスチナ人がエルサレムで、ナイフを所持している容疑で、占領警察に銃撃された。

・土地の日で、人民党は、統一と闘争のエスカレーションを呼びかけた。

・ヒズボラ：ベネイ・ブラク作戦は、占領に対する打撃である。

・サルフィットの西で、20本のオリーブの木を入植者たちが根こそぎにした。

・ヨルダン王とガンツが、パレスチナでの全面的な平穩について話し合い。

・イスラエル治安相は、市民に治安活動へのボランティアを呼びかけた。

・ラマダンを前に、占領警察は、アルアクサへ入場することへの一連の制限を準備している。

・占領軍は、2人の青年をアルアクサで逮捕した。

・ガザの港で、パレスチナ人は土地の日46周年を大規模なデモ祝った。

・占領軍は、西岸とガザに14大隊の追加を決定。

3月31日

・イスラエル警察は、MK ベンギビールのアクサモスクへの侵入を許可した。

・イスラエル国防相は、モロッコにアイアンドームを提供することで、合意。

・200人の市民の逮捕、イスラエルは、アパルトヘイト分離壁の再建の計画をつくることを決定した

・占領軍は、西岸で、大規模な逮捕キャンペーンを開始。

・エツィオンの近くで、刺殺攻撃をしようとしていたとして、殉教

・北部ガザ海で、占領軍が漁師に発砲。

- ・ 厳重な警備のもと、クネセツ議員、極右のベンギビールがアクサモスクを急襲した。
- ・ 占領軍は、マサフェール・ヤツタで、老人を殴打し、トラクターを没収した。
- ・ ファサイエルで、入植者たちの攻撃で、市民が負傷した。
- ・ 占領軍は、ブルキンで、二つの練炭小屋の建設、作業をやめるように通

パレスチナ人に愛されている歌

この歌は、パレスチナの歌ではなく、1973年の第四次中東戦争のときのシリアの愛国歌で、第四次中東戦争で、アラブ側がイスラエルを追い詰め、アラブのところが高揚した。パレスチナのコマンドたちもこの歌をよく歌っていました。

シリア・マイ・ラブ(スーリア・ヤ・ハビバティ)

シリア、私の愛
あなたは私の尊厳を回復させ、私のアイデンティティを回復させた

シリア、私の愛
あなたは私の尊厳を回復し、私のアイデンティティを回復しました。

戦争と闘争、そして傷のたいまつで
彼女は私の革命の道を照らす
私の愛よ

私たちの運河、私たちのゴラン*、私たちの空、私たちの土地
我々の血はそれらを救い、我々の英雄はそれらを守る
そして我々の復活は偉大な栄光に向かって歩む
私の帰還を約束し、私の尊厳を高め、私のアイデンティティを更新する。

戦争と闘争、そして傷のたいまつで
彼女は私の革命の道を照らす
わが愛よ

ヤー・ヤー・ヤー

ヤー、私はアラブ人
私は父の名を継ぐ者だ、私の父は誰だ、誰だ

ショットガンの弾丸で、誇り高き国のために自由を創造したのだ
オーわたしの愛よ

シリアよ、すべての革命家の道
自由な者たちの城よ

善き知らせの中にある、あなたの偉大なる忍耐力
希望と意識に約束された

あなたは私の尊厳を回復し、私のアイデンティティを回復しました。

戦争と闘争、そして傷の松明で
私の革命の道を照らす
私の愛よ

道はまだ終わっていない、アラビズム
奪われた我々の土地が戻るまで
テントの中で、破局の子が呼んでいる。
“愛するシリアよ”と呼んでいる

私の尊厳を取り戻せ、自由を取り戻せ、アイデンティティを取り戻せ

戦争と闘争、そして傷のたいまつで
彼女は私の革命の道を照らす

シリアよ、私の愛
あなたは私の尊厳を回復し、私のアイデンティティを回復した
シリア、私の愛
あなたは私の尊厳を回復し、私のアイデンティティを回復しました。

戦争と闘争、そして傷のたいまつで
彼女は私の革命の道を照らす
私の愛よ





もし神がアダムを永遠の命から時間へと追い出して罰したのであれば、地球は追放され、歴史は悲劇となります。カインとアベルの家族喧嘩から始まり、内戦、地域戦争、世界戦争へと発展し、歴史の子孫が歴史を一掃するまで続いている。では、次はどうなるのか?歴史の次には何が来るのか?楽園に戻る権利は、無と神の神秘に包まれているようだ。唯一平坦な道は、奈落の底への道である。

おいしいパレスチナ カターツ

ラマダンは終わりましたが、ラマダンの時によく食されるデザートで、町で焼いているのを見ると、どら焼きのように、丸い小型のパンケーキを焼いて、それにクリームを挟んで食べます。甘さは、好みでシロップをかけてつけます。

サービング 40 個

材料

生地

- 小麦粉 1¼ カップ
- 極細のセモリナ 21 個分
- 全乳 1½ カップ (必要ならもっと)
- ドライイースト 小さじ 1
- ベーキングパウダー 小さじ 1
- 上白糖 大さじ 2

クリーム

- リコッタチーズ (またはマスカルポーネ) 1 カップ
- 生クリーム ½ カップ
- 全乳 ¾ カップ
- 極細セモリナ 小さじ 2 杯
- オレンジ花水 (またはローズウォーター) 大さじ 3
- 刻んだピスタチオ (または細かく砕いたもの) ½ カップ

シロップの材料

- 上白糖 1 カップ
- 水 1½ カップ
- オレンジの花びら水 (またはローズウォーター) 大さじ 3
- レモン果汁数滴

作り方

生地

1. イーストを 36°C に温めた牛乳の半量で希釈する。
2. スタンドミキサーのボウルに、小麦粉、セモリナ、残りの牛乳、砂糖、牛乳で薄めたイーストの材料をすべて入れ、泡立ってます。
3. ボウルに布巾をかけ、室温で風通しのよい場所で 1 時間放置する。
4. 鍋を中火で熱する。
5. 生地をのばさないように少し入れる。パンケーキを得るのが目的で、片面だけキツネ色になるまで焼く。
6. ホットケーキは熱いうちに重ねないこと。また、すぐに蓋をしなないこと。脇に置いておく。

クリーム

1. 牛乳、生クリーム、セモリナを加熱する。
2. 濃厚なクリームになる
3. 生クリームの表面にラップをかけ、冷蔵庫で冷やす。
4. クリームが完全に冷めたら、リコッタまたはマスカルポーネを泡立て器で混ぜる。そのまま置いておく。

シロップ

1. 鍋に砂糖、水、オレンジプロッサムウォーターを入れ、火にかける。沸騰したら、シロップにとろみがつくまで数分煮る。色がついてはいけない。レモンを加える。

組み立て

1. 小さなパンケーキの中央に、大さじ 1 杯のクリームを置く。クレープを半分に折り、端をつまんで閉じますが、円錐形になるように 2/3 までにしてください。
2. ピスタチオでコーンの上部を転がす。
3. この作業をパンケーキを使い切るまで繰り返す。
4. 冷蔵庫で 4 時間冷やす。
5. お召し上がりの際に、シロップをかける。

守ろう！オリーブの木を カンバのお願い



オリーブ畑再生基金の目的

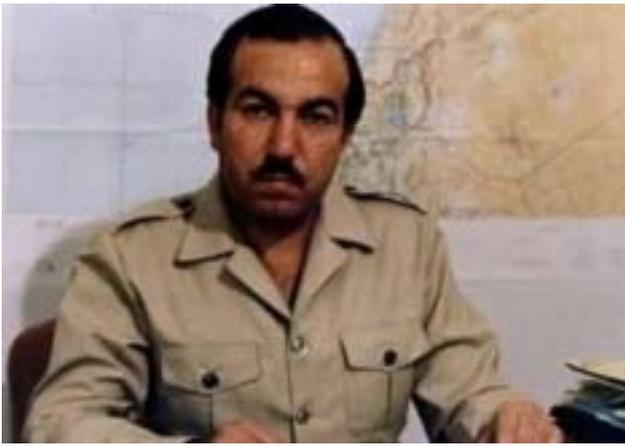
土地を守ることは抵抗闘争である。
パレスチナの農民の土地を守る闘い、
生活を守る闘いを支援します。
集まった基金は、パレスチナ農業
労働委員会連合 (UAWC) に送ります。

郵便振替

記号番号：00960-2-303500番
名称：オリーブの会 (オリーブノカイ)

他行等から振り込む場合

店名 (店番)：〇九九店 (099)
預金種目：当座
口座番号 0303500



イスラエルによる暗殺34周年。ファタハの指導者ハリール・アルワジュール・アブ・ジハード



3月29日ブネイ・ブラク作戦



4月10日ベツレヘムで、ガダ・サバティエンさんがイスラエル軍の検問所で銃撃され殺害された



ラマダンの祈り、アル・アクサで

今号の内容

- パレスチナの怒りは爆発する・・・・・・1
- アル・アクサ・モスクが侵害された・・・・・・2
- バブ・アルムード広場の時間的な分割・・・・・・3
- 敵の試みを阻止したのはレジスタンスだけである・・・・・・5
- 人民戦線の第8回全国大会にむけて・7
- パレスチナ日誌・・・・・・9
- パレスチナの愛した歌・・・・・・13
- パレスチナの詩・・・・・・14
- おいしいパレスチナーカターフ・・・15
- トピック・・・・・・16



英国の連帯運動、イスラエルの武器工場を閉鎖

